

中国企業の景況感が改善基調を強める動きに - 中国経済の安定は内外の金融市場に好影響 -

本日発表された中国の10月の製造業PMIが前月から大きく伸び、景況感の分岐点となる50を3カ月連続で上回りました。製造業の景況感は、年初までの落ち込みから改善傾向にあることが窺われます。また、10月の非製造業PMIも、前月から改善するとともに、高水準を維持しています。

今回の製造業と非製造業のPMIの結果は、中国企業の景況感の改善基調が強まっていることを示唆するものと思われます。景況感の改善を背景として、中国の株式市場は、底堅い推移になることが期待されます。

製造業の景況感は2014年7月以来の水準に改善

本日発表された10月の製造業PMIは、51.2となり、事前の予想平均（50.3）を上回るとともに、9月（50.4）から大きく伸びました。景況感の分岐点となる50を3カ月連続で上回ったほか、2014年7月以来の高水準となり、改善傾向が強まっていることが窺われます（図表1）。

中国では、過剰生産能力の削減に政府が取り組んでいます。政府による財政出動などを背景に、製造業の景況感は年初頃をボトムとして、持ち直しつつあります。先に発表された9月の鉱工業生産も、前年比伸び率の低下傾向に歯止めがかかりつつあることが示唆されており、当面、製造業の下振れ懸念は後退したと思われる。

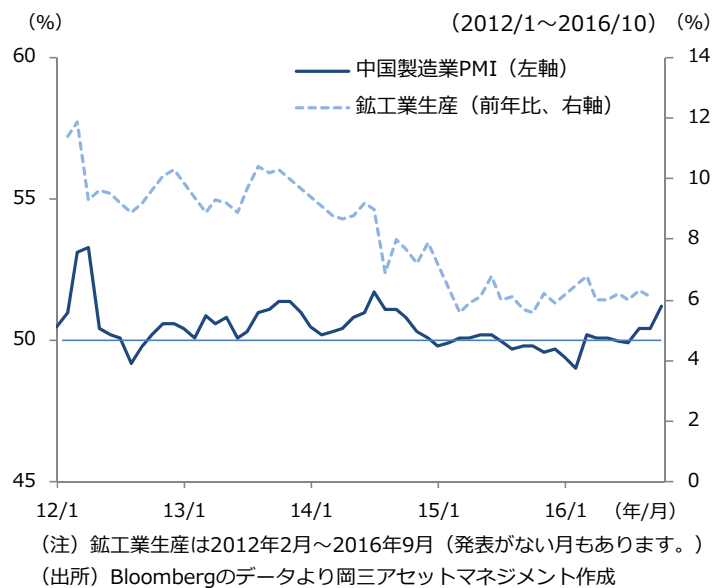
非製造業の景況感は引き続き高水準を維持

一方、10月の非製造業PMIは54.0となり、9月（53.7）から一段と伸びました。引き続き、景況感の分岐点となる50を大幅に上回っており、製造業に比べて相対的に高い水準を維持しています（図表2）。

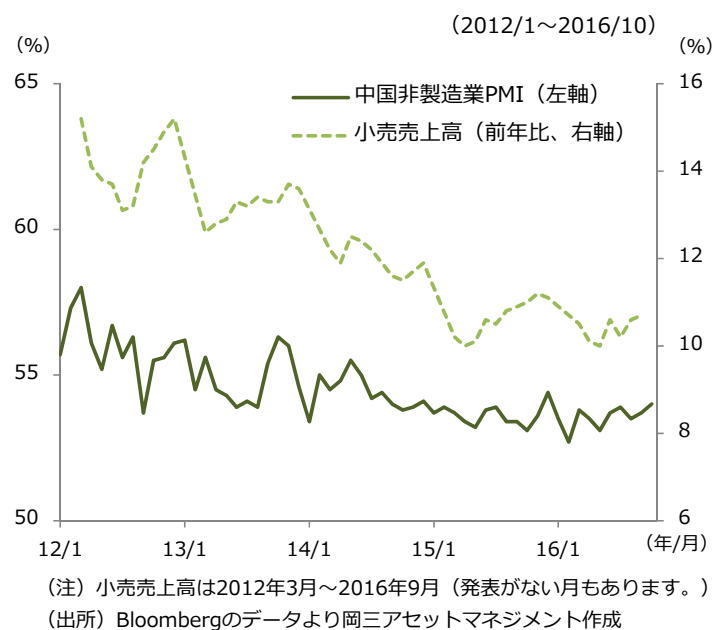
中国では、堅調な個人消費や住宅販売が景気の下支えになっているとみられます。実際、9月の小売売上高が前年比二桁の伸びを維持するなど、底堅く推移しており、非製造業の景況感は、小売業などを中心として良好な状態が続いているものと思われます。今後も、堅調な非製造業部門が、中国経済の安定化に寄与することが予想されます。

今回の製造業と非製造業のPMIの結果は、中国企業の景況感の改善基調が強まっていることを示唆するものと考えられます。中国経済に安定化の兆しが見られることは、投資家のセンチメントの改善を通じて、内外の金融市場に好影響を与えることが期待されます。

（図表1）中国の製造業PMIと鉱工業生産



（図表2）中国の非製造業PMIと小売売上高



以上（作成：投資情報部）

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用

購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）

- お客様が換金時に直接的に負担する費用

信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担

：純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

その他費用・手数料

監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。

※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社

事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業

登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号

加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）